



2016年みなさまのご支援ご協力にこそより  
感謝申し上げます引き続き頑張ります

2016年12月

mail: masahiro3660@mac.com 上田市下之郷 473-1 TEL38-4452・FAX38-7935・携帯 09015542698 【わたなべ正博後援会】《部内資料》

12月議会  
一般質問  
Q & A

「答申に沿った」とされる「今後の学校給食運営方針」について 審議会の委員11名中10名の方が11月24日に15,000筆余の署名を添えて答申に反する「統合・大規模センター」の建設は行わないことそして「単独調理場方式が望ましい」とした答申を尊重することの2点を市長 教育長に対して要請 「上田市の歴史の中でもかつてないこの異常な事態」

### 保健室や体育館と同じように 給食室が学校の中にあることが望ましい姿

「検討する・努力する」だけで明確なリスク回避策が示されていない

**Q** 1万食のセンターのリスクである、広大な建設用地の確保、配送時間、事故発生時の対応、質、食育、アレルギー、地産地消等について、これまでの答弁では「検討する、努力する」にとどまっています、明確なリスクの回避策が示されていないがどうか。リスク分散することが常識と考えるがどうか。

**A** 統合給食センターとして規模が大きくなったとしても、リスクを十分に把握し適切に対応することで、引き続き安全で安心な学校給食を提供できるものと考えている。

市民に知らせないまますすめるのか

**Q** 1万食のセンターの方針について、ほとんどの市民が知らない状況である。

なぜ、市民の声を聞かなかったのか。

なぜ、方針について、説明会やパブリックコメントなどを実施しないのか。

市民への情報提供はどのように考えているのか。

**A** 方針の基本的な枠組みそのものは、教育委員会として、行政として、多様な観点から総合的に判断した。

自校方式からセンター方式に移行となります川辺小学校、東塩田小学校を中心に説明した。

検討項目に一定の方針が出たら市民の意見を聞く

天然素材からのダシとりや、家庭に近い食事を意識した野菜等の手切りなどをどのように継続するか、また、改善する点はあるか、食物アレルギー対応をどのように実施するか検討し、一定の方針が出たら、適切なタイミングで市民の皆様

に知らせさせていくことも

に、意見などを聞く。

東塩田も川辺もこの「方針」に納得していない

**Q** 川辺、東塩田の保護者や地域の声は、「自校給食を残すべきだ」と結論は出ている。この声をどう受けとめ、反映させるのか。

**A** 自校給食を存続してほしいとの声の背景には、自校給食を地域の誇りとして大切にしたいと思いと合わせ、センター給食への不安も少なからずあるのではないかと考えます。

しかしながら、「今後の学校給食運営方針」は、川辺小学校、東塩田小学校に限らず、全市的な学校給食の方針を示したものです。

現在検討している内容がまとまったら、丁寧な説明を行い、センター給食に対する不安があるとすれば、それを和らげることができるよう努める。

くらし・困りごと  
なんでも相談  
メールOK  
気軽に声をかけてください

090-1554-2698

### わたなべ正博のノート

- 1日 一般質問準備
- 2日 野菜菜撮り「傍陽」
- 3日 モルティ塩田街演
- 4日 一般質問準備
- 5日 上田駅モーニングスピーチ
- 6日 一般質問7日(3日間)
- 7日 登壇「取り」
- 8日 党市議団会議
- 9日 東塩田小学校給食懇談会(PTA)
- 10日 「7中総」学習会
- 11日 東塩田自治連忘年会
- 12日 議会産水常任委員会質問準備
- 13日 幹部会
- 14日 議会産水水道委員会
- 15日 市役所で事務整理
- 16日 党市議団会議(予算要望書)
- 17日 党市議団会議(司法書士事務所)
- 18日 生活相談(司法書士事務所)
- 19日 党市議団会議(予算要望書)
- 20日 国賠同盟理事会
- 21日 渡辺ブロック会議
- 22日 アナログ通信「絆」完
- 23日 塩田9条の会「忘年会」
- 24日 反貧困「餅つき大会」
- 25日 青木村へ
- 26日 東塩田防犯協会理事会
- 27日 生活と健康を守る会総会
- 28日 上田駅前モーニングスピーチ
- 29日 12月議会閉会日「会派代表者会」
- 30日 母袋市長に次年度予算要望書提出
- 31日 JA信州うえだと農議連懇談会
- 12月 我が家の「餅つき」
- 12月 モルティ塩田街演
- 12月 県で会議
- 12月 誕生日
- 12月 会派代表者会
- 12月 東塩田小自校給食を求める署名提出
- 12月 ブロック会議
- 12月 かわしま会

【12月】

(12月10日現在)



住民自治とは「地域内の課題解決をその地域の住民と自治体と同じ立場で実施すること」

Q 1万食の大規模統合センターで「決定」したとしてすすめるやり方は、住民自治を全く無視したものと考えるがどうか。

A 「今後の学校給食運営方針」の施設整備の方針に対しては、様々なご意見をいただいていることは事実です。

学校給食についても、住民自治の視点に基づき、市民にわかりやすい形での情報発信を行い、真に児童生徒の食育に資する給食運営に向け、検討を進める。

長野・松本と同じことをして上田市の魅力発信につながるのか

Q 人口減少に歯止めをかけるとする上田市人口ビジョンも示された。移住・定住の施策としても、地産地消がふんだんの学校給食、一人ひとりの子どもに寄り添って実施するアレ

ギー対応食、全国で表彰されるような真田地域の給食のような「自校給食」こそ上田市の魅力になるのではないかと

A (母袋市長) 「自校給食」は、もちろん大変すばらしいと思います。

しかしながら、他ではまねのできない、できる限り手づくりによる調理の実践など、教育委員会の方針に沿って整備されたセンターが、十分に上田市の魅力を伝えられる、そのようなセンターの整備がなされ、上田市の魅力アップに貢献できる、自校給食だけでなく、センター給食による魅力発信もあり得るであろうし、そういうセンター整備を期待している。

審議会と教育委員会が提案した「方針」がなぜ1万食のセンターという方針になつてしまうのか

Q 川辺小の説明会では、「教育委員会としては答申を踏まえて検討し、いったんは「自校給食」という形で持つていったが、最終的にはお金が伴うことなので、「市長部局」というと

ところで、方向性が出されて、教育委員会としてもそれをふまえて、今回、判断させていただいた」との経緯が説明されました。次代を担う子どもたちの健全な成長を願って、審議会と教育委員会が提案した方針が、なぜ1万食のセンターという方針になつてしまうのか

「総合教育会議」の場で全員一致で方向性を出した

A (母袋市長) 最初に結論を申し上げます。市長部局で大規模統合センターの方向性がでたということ、私自身承知していません。そういう認識は持っていません。昨年12月の「総合教育会議」の場で教育委員会から示され、慎重審議の結果、全員一致で方向性を出したということなのです。

みなさんの話を否定するものではないとは言いが 【再質問】

Q (母袋市長) 11月24日の要請の折、母袋市長は「答申から4年半、それだけ方向性を出すのが難しいもの。どちらがいいか言い切

れる話ではない。

皆さんの話を否定するものではなく受け止めていただくと。今後の取り扱い、考え方を整理したい」と語った。という報道があったが、どのように理解しているのか。

「1万食・1か所の統合センターありきのこの方針については、今、立ちどまって、今後の取り扱い、考え方を整理することが必要なのではないか。

A (母袋市長) 私の立場とすれば合併して10年、自校方式とセンター方式の両方ある上田市であるので、当然のことながら、こちらがいいとは申し上げられない。

教育委員会で方針は出されているが、今後のなかでより具体的に検討内容は詰めていると思うので、その内容にも注目しながら、私としては今後の方向性や、具体的内容を判断していきたいと考えている。

### “桜ライン311” 今年も行ってきました

2011・3/11 東日本大震災が発生し陸前高田市では、市街地に15mを越す大津波が押し寄せ、甚大な人的・物的被害が生じました。

その一ヶ月後、支援物資を持って陸前高田市に向かいました。

地元では津波の到達点を桜の木でつなぎ、後世に伝えようと若者達が集まり「桜ライン311」を立ち上げました。170Kmに「17000本の桜ライン」そんな長い道のりに向けた趣旨に賛同して、今年で植樹会は5回目の参加となりました。



今年のメンバー5人と  
陸前高田市の党藤倉泰治市議

支援物資「お米」200kgを  
「共同支援センター」に届ける



希望の一本松



中央は「NPO 法人桜ライン311」  
のオカモトショウマさん